

各 位

平成 21 年 10 月 26 日

会 社 名 富士通フロンテック株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長 海老原 光博  
(コード番号 6945 東証第2部)  
問 合 せ 先 経営企画室長 上宇都 清蔵  
(TEL 042-377-2544)

当社の親会社名 富士通株式会社  
代 表 者 名 代表取締役会長兼社長 間塚 道義  
(コード番号 6702 東証、大証、名証各第1部)

## 業績予想値と決算値との差異に関するお知らせ

平成21年4月27日に公表した、平成22年3月期 第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日～平成21年9月30日）の業績予想値と、本日公表の平成22年3月期 第2四半期決算の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

1. 平成 22 年 3 月期 第 2 四半期連結累計期間業績予想値と実績値との差異  
(平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回発表予想 (A) (平成 21 年 4 月 27 日発表)	44,200	500	300	100
今回実績 (B)	41,593	291	38	△215
増減額 (B-A)	△2,607	△209	△262	△315
増減率 (%)	△5.9	<u>△41.8</u>	<u>△87.3</u>	—
(ご参考) 前年同期実績 (平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間)	47,667	2,110	1,652	349

### 2. 差異の理由

各国の景気浮揚策や金融安定化策により、世界的金融危機に対する底打ち感が見られるものの、大きく後退した実体経済を改善するには至りませんでした。このような環境のもと、金融機関を中心とした設備投資抑制が続く中、国内金融機関向け A T M および営業店端末等の所要が下期以降へ延伸したことに加え、トータリゼータ端末の更なる投資抑制などにより、売上・利益ともに、前回公表値より減少となるものです。

(ご参考)

下期も厳しいビジネス環境は続くと予想されますが、新製品・新サービスの提供および事業再編による販売の強化により売上の確保に努める一方、コストダウンと経費削減等により損益の向上を図ります。

以上の結果、通期の連結業績につきましては、平成 21 年 4 月 27 日に公表いたしました業績予想通りといたします。

平成 22 年 3 月期 通期連結業績予想（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (平成 21 年 4 月 27 日発表)	105,500	4,300	3,650	2,150
(ご参考) 前期実績(平成 21 年 3 月期)	91,760	4,113	3,080	1,179

〔業績予想に関する留意事項〕

上記、業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績等は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おき下さい。

以 上